

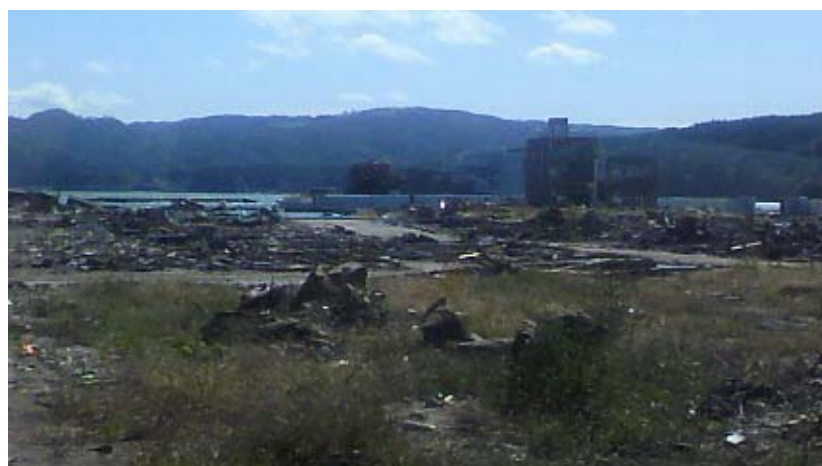
参加期間：2015年5月28日（木）～29日（金）

参加地区：南相馬市小高区

参加人数：15名

1. 参加にあたって

私にとって2011.3.11 東北地方太平洋沖地震は翌日3.12に起きた長野北部地震を抜きには語れません。当時、私は長野支店から中部国内商品事業部（現JTB国内旅行企画中部事業部）に配属になったばかりで、幼稚園に通っていた長男の都合で家族を長野に残していました。3.11の東北の惨状をテレビ越しに見ていた自分が一夜にして「地震の当事者」になりました。翌朝は、家族に会うために急ぎ長野に戻りたかったのですが、事業部の担当者という事で長野地域の安否確認作業と、東北方面からのツアー振替の対応のため、早朝から業務にあたっていました。しかしながら、テレビから東北地方での余震の報道が頻繁に聞こえてくる度に、長野の家族が思い出され、仕事に全く集中できなかったのを覚えています。この経験から正直、私にとって長野の地震が「自分事」として起きた事により、東北の地震は、どこか「他人事」だったのかも知れません。その後、出張で2011.10月に東北地域を訪れた際に、その惨状を目の当たりにし、東北の復興に関する意識が強烈に芽生えました。ですが、グループ連合会主催でのボランティア活動が既に行われている事を知りつつも、自身の多忙を理由に参加を見送り続けていました。



2011.10 当事の東北地方の様子

2. 当日をむかえ

実に4年の時が経過していました。「今更かな・・・」と自分自身を卑下しつつも、「どこかで一度は」との思いでの参加でした。出発の朝、ホテルのエレベーターで居合わせた方がリュックサックにサンダルといういかにも慣れた格好でしたので、リピーターの方であろうと推察して話しかけました。実際その通りでしたが、再度参加されている理由が「だって、一度現状を見たら途中で止められないじゃないですか」と復興支援活動が「自分事」である事を何の抵抗も無く話された事に、何とも言いようの無いバツの悪さを感じました。

バスに乗車して一路、目的地の福島県南相馬市小高区に向かいましたが、道中の車窓からは4年前とはずいぶん違う普通の日常しか目に入らず、一層、「今更」という感覚が強くなっていました。ボランティアセンターに到着後、当日の復興作業が個人のお宅の竹やぶの伐採であることを確認しました。ふと振り返ると、センターの前に自動販売機がありました。「ボランティアの水分補給のためにあるのかな」と思いましたが、お金を入れてもそのまま、お金だけが落ちてきます。聞いてはいましたが、このあたりが日中しか未だ人が住めない地域である事を実感しました。

3. 実際の作業

作業に入る前に、今回の復興支援活動のリーダーであるグループ労連副会長の長縄さんが作業の依頼主に「海はどちらですか？」と尋ねました。作業に入る前に海に向かって黙祷をするのですが、まわりは竹やぶが生い茂っており、どちらが海か全くわからない状態であったためです。海の方角を確認しつつも、実際は竹やぶに向かって黙祷をし、作業を開始しました。

持ち物や装備については油断していました。マスクと記載があったので普通の使い捨てマスクを用意したら、防塵マスクでないと機能的にあまり意味がなかったり、タオルも2枚あれば充分かと思いきや、すぐに汗やドロで汚れてしまい、水で洗って再利用する等々。それでも、一緒に参加された方々のお気遣いで何とかしのぐ事ができました。

たまたま、センターの方からチップパーという切った竹を粉碎する機械の使用方法を聞かされたので、ほぼこの機械を使っただけの作業とメンテナンスが私の役割でした。重い竹を機械に押し込むだけでも、結構な重労働で、汗が止まらず、着ていたウィンドブレーカーの中はサウナ状態になり、衣類で吸収しきれない汗が足元まで滴り落ちるといふ、学生時代の部活以来の経験でした。

チップパーの位置の都合で海のある方向に背を向けてひたすら作業をしていました。長縄さんの作業終了の指示で何気なく振り返ると、竹やぶであった場所に大きな海が見えました。人のために貢献できたことによる満足なのか、みんなで共に頑張った成果が形として現れたからなのか、今でもよくわかりませんが、本当に美しい光景に経験したことのない感動を覚えました。

4. 最後に

2日間の経験を通じ、「今更」ではなく、未だに復興支援は必要であり、一度きりではなく、これからも何らかの形で関わっていきたい、正に「一度現状を見たら途中で止められない」と私自身がこの活動を「自分事」として捉える事ができたのが今回の参加で得た最大の収穫だと感じています。

私の駄文をここまでお読みいただいた方に感謝申し上げますと同時に是非、「できる時にできる事」で結構ですので、何らかの形で復興活動に関わっていただければ幸いです。



参加者の皆さん